

琵琶湖・淀川の未来を見つめる情報誌

BY BLUE

BIWAKO YODOGAWA

SPRING 2001 **Vol.8**



●特集

今日からはじめよう
ウォーターエコライフ

●BY BLUEレポート

国際湖沼環境委員会 ILEC
グローバルな視点で
湖の環境を見つめる



写真提供：滋賀県

漁師たちの小船がうすぼんやりと霞のかかった湖上を行くのを、そっと見守るような風景。
湖と溶け合ってこそ、この艶やかさ、この健気さ。
樹齢50年を越える「ソメイヨシノ」600本、約4キロメートル続く桜のトンネル。
自転車で駆け抜けるもよし、カヌーで湖がわから眺めるのもよし。

水のある風景

花に彩られた水。花を彩る水。完璧なその自然の「小エト」は、じつじつ完成されたものなのだろう。

PHOTO JOURNEY
マキノ町・
海津大崎

8

「水のある風景」 写真募集

(採用させていただいた方には記念品を差し上げます)

このコーナーでは、あなたが写した琵琶湖・淀川流域の写真を集めています。
[応募要領] 撮影場所・撮影年月日・住所・氏名・電話番号を明記して右記まで。

〒541-0041 大阪市中央区北浜1-1-30 横井北浜ビル3F
(財)琵琶湖・淀川水質保全機構「水のある風景」係
応募いただいた作品はご返却できませんのでご了承ください。

共生は自然の暮らしに立ちかえること

始点・視点

湖や川とふれあって学ぶ

僕にとって、アウトドアライフは趣味であり、ライフワーク。琵琶湖もそのフィールドとして、釣りなどでよく訪れています。外来魚の増加など、琵琶湖の現状についても、地元の方からお話をうかがったりして、たいへん関心をもっています。

水質の悪化は、人間活動の膨張が一番の原因だと思うけれど、じゃあ、湖や川から人間を遠ざけてしまえばいいのかというと、決してそうではありませんよね。人間だって自然の一部、自然の中で生きることが一番自然なんです。琵琶湖に浮かび、淀川に触れ...、もっともっと自然とふれあう中で学び、現在の人間の暮らしを根本から見つめ直していくことが大切だと思うんです。

自然の前では謙虚になる

雪の多い福井県に生まれ育った僕にとって、自然は脅威の対象でもあります。積雪に押しつぶされそうな家の中で、人間の力では抗いようのない自然の猛威を何度も経験しました。本当にいろんなものを与えてくれるし、学ばせてくれるけれど、人間の及ばないとてつもなく大きな力をもったもの、それが自然です。だから人間は、自然の前では謙虚にならなければならないって思います。

自然と人が共生するといこうとは、決して科学の力で自然を都合のいい形にかえてしまうことではありませんよね。大切なのは、僕たち自身が自然の暮らしに立ちかえていくこと。とてもシンプルなことだと思うのですが...



清水 國明

昭和25年、福井県生まれ、東京在住。昭和48年芸能界デビュー。タレント活動のほか、新聞、雑誌への執筆活動などマルチな才能で活躍中。芸能界きってのアウトドア派であり、平成7年には、それぞれが自分なりの自然暮らしのスタイルを考え、実践する「自然暮らしの会」を結成、代表を務める。

「自然暮らしの会」ホームページ
<http://www.bnl.co.jp>

今日からはじめよう ウォーター・エコライフ

私たちは毎日の暮らしで、水を使わない日はありません。蛇口をひねれば水が出る、豊かで便利な現代生活...でも、見方を変えれば、限りある水資源をまさしく湯水のように使い、その排水で川や湖を汚して成り立っているのが現代生活とも言えるのではないのでしょうか。

資源を大切に使い、地球環境に負荷を与えない生活 = エコライフの実践は、21世紀を生きる私たちの必須課題。まずは、毎日の暮らしの中で水を大切にすることからはじめてみませんか。



水の惑星...

とは、言うものの

豊富な水に恵まれ、「水の惑星」と呼ばれる地球ですが、では、地球上にはいったいどのくらいの水があるかご存じですか。

地球上の水のある場所の総面積は約3億6千万平方キロメートル。体積は約14億立方キロメートルと推定されています。

「こんなにあるなら安心!」と安心してしまいましたが、実は、このうちの約98%は海の水。私たちの生活水の源となる地下水や川や湖などの表流水は全体のわずか0.3%ほどにすぎません。いくら地球には水が豊富だといっても、生活水には限りがあり、とても貴重な存在なのです。

実践しよう!

環境負荷の少ない ライフスタイル



現場から一言 大阪市下水道局

雲 雨 地 上 川 海 蒸 発 雲...と、水は地球上を循環しています。その循環の中で私たちは水を使い、排水しています。そんな生活や産業で汚れた水をきれいに処理して自然に戻す重要な役割をしているのが下水処理場です。24時間休むことなく働き続けている下水道施設は私たちの財産。「ディスプレイ（生ゴミ処理機）で生ゴミを砕いて流すと、水の汚れを増すだけでなく、排水管の詰まりや悪臭の原因にもなります。また、集水ますにゴミを掃きこむと水を汚すうえ、下水管の中にゴミがつまり悪臭の原因にもなるのですよ...」（大阪市下水道局）。きれいな水のために、下水道を正しく使うことを心がけたいものです。



下水道のしくみとはたらきがわかる、大阪市此花区の下水道科学館

きれいな水のために...大切な下水道

汚れる原因 第1位は 家庭からの排水
琵琶湖・淀川水系の水は私たちの暮らしを支える大切な生命の水です。将来にわたっても、心から安心して飲める水であってほしいですし、人々がそこで泳ぎ遊べるような美しい水環境であってほしいもの。また、多くの動植物を守り育てていく豊かな生態系を擁する場でもあってほしいものです。
しかし、そんな願いとはうらはらに、私たちは毎日大切な川や湖の水を汚してしまっています。川や湖に流れ込む汚れには、自然に流れ込む汚れや工場や田畑から流れ込むものもあり、私たちの家庭からの排水によるものがその多くを占めているのです。一軒一軒から出る汚れは少なくても、それが集まり、川や

湖を汚す大きな原因となっているのです。

今日から できる! 台所の工夫

水環境問題は、私たちの生活や活動そのものが引き起こすものであり、それ自体を変えていく強い認識があつてはじめて本質的な解決につながります。まずは、一人ひとりが身近にできる行動から取り組んでいくことが大切。家庭での三角コーナーの設置や廃油の再利用など、台所等での身近な工夫を通して、省資源、再資源化を暮らしの中に根付かせ、大切な水を守る「ライフ」を実践していきましょう。

水きりを使って生ゴミをキャッチ

目の細かい水切りを使って、食べ物くずを下水に流さないようにしましょう。水切りゴミ袋や、ストッキングをかけたり、三角コーナーやバスケットの穴を細かいものにすることで、台所の汚れをさらにカットできます。



油は流さない

油は汚れの負荷がとても大きい。例えば、天ぷら油500cc(ナベ1杯分)を流すと、魚がすめるだけのきれいな水に戻すのに、浴槽330杯分の水が必要です。食器類の油汚れは、古新聞などでふき取ってから洗いましょう。

揚げ油は捨てずに、天ぷら フライ から揚げ 炒め物の順で使い切るよう心がけて。どうしても残ってしまったら、ポロ布や古新聞に吸わせて生ゴミに出すか、また、せっけんや燃料などに再生する方法もあります。



おばあちゃんの知恵に学べば、洗剤いらす

油汚れのひどいもの以外はせっけんを使わなくても十分。油汚れも、洗剤を使わずに落とす昔ながらの方法があります。ぜひ、おためしを。

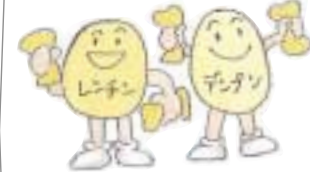
米のとぎ汁・米ぬか

サポニン成分が油汚れを吸収。密閉容器のニオイとりにも。米ぬかは洗いおけにひとつまみ入れて。細かい粒子が研磨剤の役目を果たします。



豆やめん類のゆで汁

ゆで汁は流してしまわず、洗いおけにためて。レシチンやデンプンなどの成分が油汚れ吸収。汚れのひどい食器やフライパンなどはつけ置き洗いを。



野菜くずやヨモギの葉

ミカンなどの入っていたネットに入れて、スポンジがわりにこすってみましょう。食器類はもちろん、ステンレスの流しもピカピカに。



活動紹介

滋賀県環境生活協同組合

廃食用油もリサイクルを考えてみませんか!

川や海をひどく汚してしまう油。その油から地球にやさしいせっけんが作れるなら一石二鳥ですね。現在、各地に廃食用油を回収し、リサイクルしているグループがあるので、自治体や地域の生協などに問い合わせてみましょう。

滋賀県蒲生郡に事務局がある滋賀県環境生活協同組合は、廃食用油のリサイクルに取り組むグループのひとつ。自分たちで廃食用油からせっけんを作るリサイクルシステムを作りあげ、さらに、廃食用油から燃料をつくるシステムの普及と改良へと活動の幅を広げています。



廃食用油燃料づくりミニプラント「エルファ型100L」

廃食用油燃料づくりのシステムは、天ぷら油などの廃食用油100リットルにメタノール20リットルを加えて反応させ、2時間ほどで100リットルのBDF(バイオ・ディーゼル・フューエル)を作るというもの。BDFは軽油と同じようにディーゼル車、耕耘機、発電機、船などに使え、しかも原料が石油ではないので硫酸酸化物はほとんどゼロで、黒煙の発生も軽油の3分の1だそう。

このシステムは、すでにドイツでは国家事業として強力に進められており、滋賀県の愛東町をはじめ全国十数か所でミニプラントが設置されて、生成物は実際に公用車、パッカー車、漁船等の燃料として使われています。

水環境を学ぼう!話し合おう!

私たちが水環境の改善に取り組んでいくためには、身近な暮らしの場でできることを実践するとともに、水環境の実態や人間活動と水環境とのかわりについて積極的に学び、体験・実感していくことが大切です。学校での体験学習や野外活動に積極的に参加したり、博物館などの施設も活用してみよう。

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構でも、流域住民のみならず、水に関心を持っていただき、水環境を積極的に学んでいただけるよう、さまざまな取り組みを行っています。当機構のインターネットホームページもそのひとつ。琵琶湖・淀川の水環境の状況や各

【参考資料】

- 「地球と生きる55の方法」ほんの木「地球環境にやさしくなれる本」PHP
- 「水のおもしろい雑学」オーエス出版
- 「エコライフをはじめよう!」滋賀県エコライフ推進課

グローバルな視点で湖の環境を見つめる

わが国の湖のみならず、現在、世界各国の湖沼では、周辺の地域の人口増加や工業化などの影響で環境破壊が進んでいます。国際湖沼環境委員会(ILEEC)は、世界の湖沼環境を健全に管理していくための調査研究や国際的な知識の交流を推し進めている団体です。



'84世界湖沼会議での決議にこたえて

昭和59年、世界各国から湖沼の専門家たちが滋賀県・琵琶湖畔に集い、第1回の世界湖沼会議が開催されました。そして、この会議を総括する琵琶湖宣言では、湖沼を救う効果的な行動を起こすために、湖沼の特性と管理に関する情報の国際交流を行う国際的な連絡組織の必要性がうたわれました。これにこたえて設立されたのが国際湖沼環境委員会(ILEEC)です。

ILEECでは、組織の中核をなす科学委員会をC.E.パウアー氏(世界技術団体連盟技術環境委員会委員長)や吉良竜夫氏(元滋賀県琵琶湖研究所長、大阪市立大学名誉教授)など、13カ国16名の著名な研究者、計画・政策の専門家で構成。湖

データ収集と人材育成 世界の湖沼をつなぐパイプ役として

世界湖沼の的確な管理を推進していくためには、各湖沼の

沼やその環境を合理的に管理することを目的に、科学的な研究の推進、技術面・管理面における湖沼の開発や環境保全計画遂行のための助言、といった事業を行っています。さらに、平成4年、主に発展途上国における環境上の適切な技術の適用・応用を推進する国際連合環境計画国際環境技術センター(UNEP IETC)が設立されてからは、その支援財団として、同センターへの人的な支援なども行っています。



湖沼管理を学ぶために、各国から研修生が訪れています



「湖沼は地球上のすべての環境問題を映す存在です」と小谷専務理事

現況調査が不可欠です。ILEECは、科学委員がそれぞれにもつグローバルなネットワークを通じて、世界の湖沼の水質や生態系について、また、その背景にある社会情勢に関してデータの収集に努めています。しかし、世界的にみても調査環境の整った湖沼は数少なく、特に発展途上国の湖沼においては十分なデータを集めることは非常に困難。それを解消するために、現在、コンパクトな機材を使った比較的容易な水質の調査手法とその結果

湖はすべての環境問題を映し出す

「さまざまな環境問題は、最終的には水、湖に反映されます。富栄養化をはじめ、有害化学物質による水質汚染や生態系の破壊といった問題が全世界的に広がっています。それが、それに関わるといふことは、とてもなく広い範囲の環境問題への知識と対応力が必要になってくるのです」と話すのは、ILEECの小谷博哉専務理事。今年も11月にILEECの重要な事業の一つである「第9回世界湖沼会議」が開かれるのをはじめ、その後、「リオプラス10」や「WFF3」といった環境会議が開催されます。「それぞれの会議

をインターネットを通じて世界中に即時発信できるシステムを開発中です。また、湖沼を管理していく人材を育成することもILEECの重要な事業の一つ。毎年、発展途上国を中心に世界各国からの研修生を受け入れ、湖沼管理に関するトレーニングが行われています。研修生の職業は、研究者や上・下水道関係者、また水産業者などさまざま。ILEECで湖沼管理のノウハウを学び、各国で湖沼管理のリーダーとして活躍していくことが

期待されています。さらに、小・中学生の早い段階からの環境教育の充実をも視野に入れて、ILEECでは「湖」を共通のキーワードに、国際的に共有できる環境教育法の開発が進められています。日本、デンマーク、ブラジル、タイ、アルゼンチン、ガーナが共同で国際的な環境教育のノウハウを築き、これをまず、教職にある人や教育学部の卒業生に広めていこうというプロジェクトが、今年からの5カ年計画でスタートしています。

で、21世紀の湖沼環境や、淡水資源の効率的な確保について真剣な議論が行われることでしょう。その結果をどのように具体化していくか、どのように世界に広めていくかが私たちがILEECの課題です」

第9回 世界湖沼会議

BIWAKO 2001

テーマ: 湖沼をめぐる命といとなみへのパートナーシップ 地球淡水資源の保全と回復の実現に向けて

会期: 2001年11月11日(日)~16日(金)

会場: びわ湖ホール(滋賀県大津市)(開閉会式、全体会議、琵琶湖セッション) 大津プリンスホテル(滋賀県大津市)(分科会、分科会ワークショップ、ポスターセッション、自主企画ワークショップ)

詳しくは、ホームページをご覧ください。

URL <http://www.biwako2001.com/>

問 第9回世界湖沼会議実行委員会事務局

☎077-528-3466 ☎077-528-4849

平成13年度助成対象活動募集

当機構では、琵琶湖・淀川水系の水環境に関する活動に対し、助成事業を行っています。ここでは、今年度の助成対象活動募集のご案内と昨年度、助成を受けて展開された活動の報告をおとどけします。

琵琶湖・淀川の水質保全に関わる活動を応援します。 助成の対象となる事業は以下の2項目です。

琵琶湖・淀川水系の水環境改善事業

- ・地域に密着した身近な水質浄化事業
- ・水質浄化事業に必要な材料調達システム作り及び材料調達
- ・水質浄化事業におけるリサイクル推進事業
- ・上記に関連する研究

琵琶湖・淀川の水辺を愛する活動

- ・水質の保全・改善に関する活動
- ・自然生態、親水、水源涵養の機能を保全・改善する活動
- ・水環境について知り、理解する活動

両助成ともに1件あたりの助成金額は30万円程度。助成金の用途は、助成の目的を満足するものであれば、とくに制限は設けませんが、助成を受けた団体又は個人の事務所そのものの運営に関する経費、人件費等は除きます。

申し込み受付期間: ~平成13年5月15日(必着)

上記助成を希望される団体・個人は応募様式に必要事項をご記入の上、お申込みください。

各助成の応募には助成資格を設けていますのでお問い合わせください

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構企画開発部
☎06(6202)1267(代表) ☎06(6202)1317
当機構のホームページでもご案内しています
<http://www.byq.or.jp>

平成12年度
助成活動報告

琵琶湖・淀川水系の水環境改善事業助成

特定非営利活動法人 自然と緑

会員118人、賛助団体6

琵琶湖流域で、生命の水を守るための豊かな森林づくりを目指す「自然と緑」は、助成を受けて昨年7月「琵琶湖畔・水源とふれ愛の森林づくり」をテーマに、馬ヶ瀬山国有林などで、森林整備事業(植林地の下草刈、間伐)や親と子の緑陰学級を展開。自然観察会やピオトープづくりなども定例作業として行われています。



滋賀自然環境研究会

構成員161人

滋賀県の自然科学研究の向上を目的に活動を続ける当研究会。助成を受けて今回は、県内の環境学習の指導者や琵琶湖などの水質保全活動に取り組むコーディネーターを育成するために「生物環境アドバイザー基礎研修」を開催。今年度は、植生コースと動物コースが設けられ、当会会員をはじめ、各種機関の環境担当者、学生などが参加しました。



琵琶湖・淀川の水辺を愛する活動助成

世界湖沼会議学生ネットワーク

構成員20人

湖沼に関する講演会などの企画、運営を行っている当ネットワークでは、今回の助成を活用して、昨年6月に「湖沼会議学生ネットシンポジウム 琵琶湖の問題を知る～琵琶湖の外来魚について～」を開催。学生の取材レポートなどを通じ、外来魚について、漁業や生態学的な問題などさまざまな問題を紹介。参加者への周知を図りました。



社団法人 大津青年会議所

構成員154人

琵琶湖の水環境保全や種々の環境問題に、各種団体や住民が共同で取り組む「エコラーニングシティー大津」を提唱している当会議所。今回の活動のテーマは、「琵琶湖・水とのふれあい」。住民の琵琶湖に関する意識の高揚と、さまざまな団体とのパートナーシップの構築を目的に、湖上でいかにボートレースや琵琶湖深層水を利用した飲食物の試食などを行いました。



その他の活動については、次号以降でご紹介します

海外水環境保全事情

韓国の河川水質対策

近年の経済開発政策の陰で河川の汚染が進んだ韓国ですが、最近では大規模な河川対策が制定され、水質浄化への取り組みが始まっています。

上・下流共栄を基礎とした漢江水質対策 総合的な視点で取り組む洛東江水質対策

江原道太白市クムテ山から発し、西海へと流れ込む漢江。全国民の半数に当たる2,000万人の上水源の役割を果たしています。洛東江は太白市のファンジ池から発し、嶺南地域を流れ南海に流れ込む嶺南人の生活と文化の源で、流域に1,300万余りの人々が生活しています。しかし、この30余年にわたる、激しい経済開発政策の裏で洛東江では水質の汚染が進みました。政府は下水処理場のような環境基礎施設を建設するなど、汚染物質排出量をそのものを減らす努力ははつきりとはあらわれてきませんでした。このため99年12月、国務総理

特別対策の内容は、水辺地域を設定して緑地を造成する汚染予防対策、下水処理など環境基礎施設を拡充する汚染減少対策、水利負担金制度を通じた上流地域支援対策、これらの対策を効果的に推進するための財源調達法案と管理体制整備、が大きな柱となっています。また、全上・下流域が共に利益を得られるように作られており、上水源地域に対しては土地利用規制、汚染総量制など汚染防止措置を強く求め、下流域に対しては、水利負担金を賦課して、その財源で上流地域住民たちと自治団体を支援するという点が特徴となっています。

韓南西部を流れる洛東江でも大規模な河川水質対策が展開されています。

洛東江は太白市のファンジ池から発し、嶺南地域を流れ南海に流れ込む嶺南人の生活と文化の源で、流域に1,300万余りの人々が生活しています。しかし、この30余年にわたる、激しい経済開発政策の裏で洛東江では水質の汚染が進みました。政府は下水処理場のような環境基礎施設を建設するなど、汚染物質排出量をそのものを減らす努力ははつきりとはあらわれてきませんでした。このため99年12月、国務総理

主宰の水管理政策調整委員会によって洛東江再生対策が策定されたのです。この対策は、水質・生態・水資源の総合的な視点で策定されており、汚染総量管理制の全面導入や上水源周辺地域の管理強化、排水による汚染事故の事前遮断、環境基礎施設的大幅拡充、といった施策が盛り込まれています。現在は、2008年までに洛東江水系の上・下流域を「級水水準」に改善することを目標に、政府と上下流域住民が一体となった取り組みが進められています。



水 辺からのメッセージ

協議会は、木津川流域の水質の向上、景観の保全、生態系の回復など多様な課題の解決に向けた取り組みを進めるとともに、流域住民、来訪者が心身ともに生き生きとなり、流域圏の人と人、地域と地域の交流の促進を目的としてあります。

協議会では、住民、NPO、企業、行政との協働による上流から下流までの一体的な流域圏づくりの活動を展開していきたいと考えておりますので、流域の皆さんのさらなるご協力とご理解をお願いいたします。(三重県地域振興部資源課)

三重県伊賀県民局では、木津川流域ネットワークの構築に向けて、平成11年7月に木津川にかかわる伊賀地域の市町村、国土交通省、水資源開発公団、県による木津川流域リフレッシュ事業推進協議会を設立いたしました。

協議会では、住民、NPO、企業、行政との協働による上流から下流までの一体的な流域圏づくりの活動を展開していきたいと考えておりますので、流域の皆さんのさらなるご協力とご理解をお願いいたします。(三重県地域振興部資源課)

木津川は三重県の伊賀地域を源流とし、200余りの支流を合わせ、京都府八幡市で淀川に合流する延長約100kmに及び一級河川です。

また、京都府立木津高等学校から、水質調査活動を通じて広がった地域との交流についての事例発表があり、分科会では、木津川の美化活動、水質や生態系の調査、地域の自然を生かした取り組みなどについてNPO、教育、行政の分野から意見交換されました。



三重 木津川流域ネットワークの構築に向けて

平成12年12月には、第2回目の木津川流域シンポジウムを開催し、上中下流域の住民約200名の参加がありました。

シンポジウムでは、藤井絢子氏(滋賀県環境生活協同組合理事長)の講演があり、琵琶湖の再生にかける思いを日々の生活スタイルに視点を当て熱く語りました。

NET COMMUNICATION!

水環境をテーマに

<http://www.byq.or.jp/bbs/>

ネットコミュニケーション!

琵琶湖・淀川の水環境情報やイベント情報をお届けしている当機構のホームページに、いつもたくさんの方のアクセスをいただき、ありがとうございます。

今回、さらにオープンな情報交換と、琵琶湖・淀川を愛する皆さんとのコミュニケーションをはかる中で、これからの琵琶湖・淀川水系の水環境のあり方を考えていくために、ホームページに『BYQ-Net Meeting 琵琶湖と淀川の水環境を語る会議室』を開設しました。

この会議室(掲示板)にはどなたでも書き込みOK。琵琶湖・淀川水系での活動報告やイベント紹介など、何でもありのフリートークのページです。ぜひ、ご参加ください!!

編集後記

かねてより、読者の皆様からは、水環境を良くするための活動のご案内を数多くお寄せいただき、ありがとうございます。平成13年度も昨年度に引き続き、水環境の改善につながる活動の支援助成を行います。何かお役に立てることがありましたらご一報ください。

また、より有意義な活動が行えるようにホームページに会議室を開きました。皆様のご意見をお待ちしております。(M.O., Y.M.)



財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構
Lake Biwa-Yodo River Water Quality
Preservation Organization

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構は、淀川水系における河川・湖沼水の水質浄化技術及びこれに関連する技術に関する研究開発、水質浄化事業の支援等を行うことにより、淀川水系の水質保全に寄与し、もって潤いのある地域社会の形成と、関係住民の生活環境の向上に資することを目的としています。